

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ⑥9

『北京・杭州の視察』

皆さん、11月21日～25日まで5泊6日で友好団の一員として、中国の北京と杭州を視察してきました。何かと難しい課題がある中、日中の歴史的な絆の強さと今後の友好交流のあり方について話し合ってきました。領事館交流からの発展形として参加しました。

（1）中国社会科学院日本研究所での協議

協議題は「少子高齢化」「二酸化炭素の削減（環境問題）」「中国の年金制度」「移民対策（子どもたちへの教育）」「靖国参拝」について話し合いました。年金にしても、少子高齢化にしても、日本も中国も同じ課題を抱えていることが分かりました。また二酸化炭素の排出規制が進み、日本とさほど差のない状況となっています。漢字の学習方法については、部首やつくりを先に学び、同じ種類の漢字を集めるというお話を聞きました。いずれにしても両国共、移民対策は遅れている感じがいたしました。

（2）歴史的遺産の見学（天壇公園・故宮・靈隱寺）

北京の象徴である天壇公園は、観光客で賑わっていました。皇帝が神の声を聴いた場所。あまりの人に厳粛な思いとはなりませんでした。故宮の建物はとてつもない大きさで、紫禁城（中国皇帝の城）のスケールの大きさを感じました。ただ陳列されている文物は少なく、内戦の時に台湾に渡ったものが多いようです。靈隱寺をはじめ、キリスト教会やイスラム教のモスクを見ることができました。人口の割に宗教施設が目につかないのは、文化大革命で古いものが破戒されたからだと思います。靈隱寺は雲林禪寺とも言われ、中国禪宗五山十刹の一つです。

（3）ロボット産業・IT関連

現代中国の強み、人型ロボット。ロボットによる様々な取組を見学しました。日本でも（津島市でも）ロボットを学校教育に取り込んでいますが、中国のロボットははるか先をいっていると感じました。北京のロボットワールドも杭州の n' スペースも医療介護の分野をはじめ、工作機械・教育機器など幅広く活用されていることが分かりました。杭州文三街の近くで見たイルミネーションの凄さは、360度街中の高層ビル（タワーマンション）を使ったイルミネーションでした。

（4）そしてアリババへ

最終日、帰国直前にアリババの見学が許されました。創業者は馬雲（マーコン、ジャック・マーシー）。20年足らずでインターネット通販の世界王者になった会社です。本社ビル（ビル群）の大きさは偉容です。これほどのビル群は見たことがありません。アリババは絶えず新しいビジネスにチャレンジしようとするベンチャー企業でした。

令和7年12月1日

津島市教育委員会

教育長 浅井厚視